

主日礼拝

2021年2月21日
午前10時30分

前奏 「われ汝に呼ばわる、主イエス・キリストよ」
(J.S.バッハ)

参集 (報告・紹介・予定)

招詞

いと高き神のもとに身を寄せて隠れ
全能の神の陰に宿る人よ
主に申し上げよ
「わたしの避けどころ、皆
わたしの神、依り頼む方」と。
神はあなたを救い出してくださる
仕掛けられた罠から、陥れる言葉から。
神は羽をもってあなたを覆い
翼の下にかばってくださる。
神のまことは大盾、小盾。

(詩編91:1~4)

受難節のリタニー

《受難節第1主日》

司式者：神さま、私たちはユダと同じように
イエスさまを裏切ったことがあります。
これからは私たちがもっとイエスさまに
従うことができるように導いてください。
会衆：主よ、私たちをあわれみ導いてください。
司式者：弟子の一人であるユダがイエスさまを
裏切り、ほかの弟子たちもみなイエスさまを
見捨てて逃げ去ってしまったことを思いつつ、
このろうそくを消します。

(消火)

祈祷

献金

献金箱が受付に置いてあります
ので、礼拝前にお献げください。

主の祈り

天にまします我らの父よ、
ねがわくは み名をあげさせたまえ。
み国を来させたまえ。
みこころの天になるごとく
地にもなさせたまえ。
我らの日用の糧を、今日も与えたまえ。
我らに罪をおかす者を我らがゆるすごとく、
我らの罪をもゆるしたまえ。
我らをこころみにあわせず、
悪より救い出されたまえ。
国とちからと栄えとは限りなくなんじのもの
なればなり。
アーメン。

聖書 マタイによる福音書 4:1~11

新約(新共同訳) P4~P5

さて、イエスは悪魔から誘惑を受けるため、“霊”
に導かれて荒れ野に行かれた。そして四十日間、
昼も夜も断食した後、空腹を覚えられた。すると、
誘惑する者が来て、イエスに言った。「神の子なら、
これらの石がパンになるように命じたらどうだ。」
イエスはお答えになった。

「『人はパンだけで生きるものではない。神の口から出る一つ一つの言葉で生きる』
と書いてある。」次に、悪魔はイエスを聖なる都に連れて行き、
神殿の屋根の端に立たせて、言った。

「神の子なら、飛び降りたらどうだ。」

『神があなたのために天使たちに命じると、あなたの足が石に打ち当たることのないように、
天使たちは手であなたを支える』

と書いてある。」イエスは、「『あなたの神である主を試してはならない』
とも書いてある』と言われた。更に、悪魔はイエスを非常に高い山に連れて行き、
世のすべての国々とその繁栄ぶりを見せて、「もし、ひれ伏してわたしを拝むなら、
これをみんな与えよう」と言った。すると、イエスは言われた。「退け、サタン。」

『あなたの神である主を拝み、ただ主に仕えよ』

と書いてある。」そこで、悪魔は離れ去った。すると、天使たちが来てイエスに仕えた。

賛美 284 (1, 2, 4) 「荒れ野の中で」

Forty days and forty nights
詞 : George H. Smytton, 1822-1870

AUS DER TIEFE RUFE ICH (HEINLEIN)
曲 : Martin Herbst, 1654-1681

1 あれののなかで うえにくるしみ
2 この主につづき われらもともに▶
4 主は、世の あれの あゆむわれらと▶

主はこころみをおうけになった。
▶いのりたやさずしたがいはあゆも。
▶ともにおられる、しょうりの日まで。

説教 「正しさの誘惑」

賛美 530 (1, 2, 4) 「主よ、こころみ」

In the hour of trial
詞 : James Montgomery, 1771-1854

PENITENCE
曲 : Spencer Lane, 1843-1903

主よ、こころみ うくるおり、

いのりたまえ わがために。

こころおそれ まようときも、

あいのみか おむけたまえ。

- 1 主よ、こころみ うくるおり、 2 世のたからは 目をうばい、
いのりたまえ わがために。 世のほまれが さそうとき、
こころおそれ 迷うときも、 十字架の主の みくるしみを
あいのみかお 向けたまえ。 しめしたまえ わがむねに。

- 4 塵より成る このわが身、
塵にかえる そのときも、
主よ、御顔を あおぎ見つつ
ゆかせたまえ みもとへと。

派遣

- 司式者 主は言われます。
「わたしは誰を遣わすべきか。」
会衆 わたしがここにおります。
わたしを遣わして下さい。

祝祷

アーメン

アーメン アーメン アーメン

後奏 「プレリュード ホ短調」

(N.ブルーンズ)

司式 要田 悟史
説教 向井 希夫牧師
奏楽 高橋 孝子

※お立ちになるのが困難な方は、
座ったままで礼拝をお守り下さい。

※賛美歌の最後には、基本的に「アーメン」を付けません。